

国際部報告

WFASの今後とJSAMとしての関わり方について - 2007年WFAS 20周年記念学術大会（北京）参加報告

若山 育郎

全日本鍼灸学会 国際部長

要 旨

2007年10月20日～22日の3日間にわたり、世界鍼灸学会連合会（WFAS）設立20周年記念学術大会が中国・北京で開催された。今大会は、学術的な面よりも、1) 設立20周年を記念した大会であったこと、2) そのためWHOからの複数のゲストが招かれ、また、ゲストによるレクチャーがあったこと、3) 執行理事会からWFASの今後10年間の方針が示されたことなどが大きな特徴であった。WFASの今後10年間の方針は少しずつではあるが、実行される段階にきている。全日本鍼灸学会、さらには日本鍼灸の将来を考えたとき、WFASと今後どのようなスタンスで対応していくかについて、重大な判断をするべき時期にきているのではないかと考えさせられる大会であった。

キーワード：WFAS、WHO、20周年記念大会、北京、執行理事会

はじめに

WFAS（世界鍼灸学会連合会）が発足して20年が経過した。今年度（2007年）の北京大会においては、20周年記念大会と名づけ、WHOからもゲストを迎え、盛大に開催された（図1）。しかしながら、以前から指摘があるように（戦後の国際交流史を語る¹⁻⁵⁾、WFASとWHOを斬る⁶⁻⁸⁾、WHOと伝統医学⁹⁾）、WFASにおいては、執行理事会は毎年開催されるものの、実質的な活動はほとんど中国が行っている。別な言い方をすれば、各国はあえて中国にその活動を任せ、自身はあまり積極的にかかわってこなかったということでもある。WFASの方向性は中国の意志に委ねられている。小職は昨年のバリ大会、今年度の北京大会にて津谷喜一郎前国際部長（WFAS執行委員）の代理として執行理事会に出席した。当初は執行理



図1 開会式

事会の運営方法について民生的でない面が目立ち、疑問も大きかったが、次第にJSAM（全日本鍼灸学会）また日本としてもっと積極的に関わっていかねばならないと考えを変えつつある。本稿では、

まず WFAS と特に日本との関係について歴史的な経緯を概観しつつ、今後の JSAM の取るべき方向性について考えてみたいと思う。

・ WFAS と JSAM の関わりの歴史的経緯

WFAS 設立に関する経緯は津谷喜一郎前国際部長による「WHO と伝統医学⁹⁾」に詳細に記載されているが、抜粋しながら簡単に説明させていただく。

WFAS 設立以前に鍼灸関係の世界的な NGO としては、SIA (Société Internationale d'Acupuncture ; 国際鍼灸学会) があった。SIA は 1945 年にフランスで設立され、ヨーロッパを中心に活動を行っていた。1960 年代になると日本などアジア諸国も参加するようになり、1962 年台湾で SIA のアジア支部会とでもいうべき国際鍼灸学会亜州区大会 (Asian Congress of International Society of Acupuncture) が開催された。その後日本でも国際大会開催の機運が高まり、1965 年には日本鍼灸師会が中心となって第 1 回世界鍼灸学会を盛大に開催した。世界大会はこの後第 10 回まで続く (表 1)。

SIA の世界大会の滑り出しは順調で当初は参加者も非常に多かったが、第 7 回大会における各国代表者会議での混乱により、第 8 回大会は分裂して開催されるなど、次第にその活動は衰退していった。また、WHO は当初鍼灸という伝統医学の発

展に関しては、この SIA に託そうと考えていたようであるが、第 8 回大会からは SIA の活動には関与しなくなった。一方、注目すべきは、日本からの参加者の多さである。日本が主催した第 1 回大会、第 5 回大会は例外としても、その他の大会でも最大 150 ~ 170 人を送り込んでいる。昨今の我が国からの WFAS 参加者数の激減ぶりと比較すると、当時の日本鍼灸界のどこにこれほどのパワーがあったのかと思うと同時に現在の状況に愕然とする。

さて、SIA が国際組織として活動している時期と少し重なるが、アジアではこうした SIA 内部の混乱を受けて、SIA に見切りをつけ新しい学会をつくろうという動きが出てきた。1982 年フィリピン・マニラで日本、中国、韓国などの代表者が集まり鍼用語標準化の WHO 会議が開催されたが、その席で具体的な話題が出た。当時中国は SIA にはそれほど深く関わっていたわけではなかったため、日本が中心となり、黒須幸男 (当時 JSAM 理事・総務部長、現 WFAS 副会長・JSAM 国際部顧問) の発案で世界鍼灸連合をつくろうということになった。

この黒須案をきっかけにアジア主導の国際的な鍼灸関係の組織をつくるための実行委員会が開催され、学会などの組織をメンバーとする連合 (World Federation of National Acupuncture Socie-

表 1 SIA (Société Internationale d'Acupuncture; 国際鍼灸学会) 世界大会の概要

	開催年	主催国・主催地	参加国	参加人数	日本からの参加者
第 1 回	1965	日本・東京	19	800	700 (海外から 100 人)
第 2 回	1969	フランス・パリ	27	300	57
第 3 回	1973	韓国・ソウル	22	700	95
第 4 回	1975	米国・ラスベガス	17	700	115
第 5 回	1977	日本・東京	32	1600	1250 (海外から 350 人)
第 6 回	1979	フランス・パリ	54	1100	150
第 7 回	1981	スリランカ・コロンボ	40	1200	170
第 8 回	1983	ブルガリア・ソフィア	29	800	
*	1983	オーストリア・ウィーン	25	700	100
第 9 回	1985	カナダ・モントリオール	20	600	9 **
第 10 回	1987	アメリカ・ラスベガス			

* 第 8 回大会は第 7 回大会における各国代表者会議の混乱により、分裂して開催された。本来ウィーンで開催されるはずであったが、結局ウィーン大会は「第 8 回」の名称を使わず、「World Congress on Scientific Acupuncture」として開催された。

** 第 9 回大会で日本からの参加者が極端に少ないのは、すでに SIA と決別して、新たに「世界鍼灸学会連合」をつくる準備を進めていたためである。

WFAS ストラテジー 2007-2016

昨年の中国・北京大会執行理事会で今後10年のWFASの目標が議案に挙がった。「WFAS Strategic Plan 2007-2016」であるが、大きくまとめると以下ようになる。まず、大目的としては、主導するところは一つでよい(WFASのこと、或いは中国のことか?)、その強力なリーダーシップのもとにより国際的な組織として発展させていこうということである。もちろん、WHOとの公的関係を維持しながらということは常に強調されている。その上で、さらに、

- 1) メンバー学会を増やしていく、
- 2) 鍼灸師(鍼灸医師)についての特に資格の面での法整備をおこなっていく、
- 3) 学術レベルを上げていく、
- 4) 経済的・資金的に自立していく

という4項目が基本であるという記述が続いている。

余談であるが、昨年度のインドネシア・バリ大会執行理事会において議論の一つとなったのが、メンバー学会としてWFAS執行部が提示した専門学校や研究会をどこまで認めるかということであった。WFASの拡大方針により既に一国一学会ではなくなっており、また、学会でなくとも専門学校、大学などの単位でメンバーになることができる。日本に関しては現在のところJSAMが唯一のメンバーであるが、近い将来その状況は崩れる

かも知れない。これに関連して、今回WFAS事務局から提案のあった世界各国の鍼灸関係の大学に対する「Preparatory Conference for the University Cooperation Working Committee」への参加要請がある。つまり、WFASの一委員会として世界各国の大学に、この大学間協調作業委員会なるものへの参加を呼びかけ、大学間で教育、研究、鍼灸資格、試験などについて話し合っていこうというものである。この委員会については後述するが、筆者には執行理事会と各メンバー国(学会)と同じ関係が、この委員会でも起こるのではないかと考えてならない。つまり、何でも中国主導で決定していくという構図である。

さて、話をもとに戻す。そのあとの記述では、WFASの戦略的目標として

- 1) 世界における鍼灸の受容性、影響力を増加させ、WFASをWHOや各国政府の信頼できる組織にする
- 2) 鍼灸の標準化を推し進め、安全性、効果、質を保つ
- 3) 鍼灸が正当な評価・地位をうけるための鍼灸に関する法整備をおこなう
- 4) 最新の技術を用い、鍼灸を人類にとって利益をもたらす資源となるべく発展させる

引き続き、以上の目標を達成するためのWFASがなすべき仕事として、以下のように記載されている。

表2 学会誌に掲載されたWFAS参加報告

掲載年	巻号	報告者	報告内容
1998	48(4)	渡邊 裕	1998年WFAS国際鍼シンポジウム見聞記
2002	52(2)	小野直哉、古賀義久、津谷喜一郎	2001年世界鍼灸学会連合会シンガポールシンポジウム報告
2003	53(2)	黒須幸男、堀口和彦、津谷喜一郎	WFASローマ国際シンポジウム報告
2004	54(4)	黒須幸男、津谷喜一郎	2003年オスロでのWFAS国際シンポジウム報告
2005	55(1)	津谷喜一郎、東郷俊宏、津嘉山洋、黒須幸男	ゴールドコーストでの第6回世界鍼術大会報告
2006	56(1)	津嘉山洋、内田輝和	リスボンにおける2005年世界鍼灸学会連合会国際鍼灸シンポジウム報告
2006	56(5)	鈴木聡	世界鍼灸学会連合会マレーシア2006年国際鍼灸シンポジウム報告
2007	57(1)	若山育郎	2006WFAS鍼灸国際シンポジウムバリ大会・執行理事会報告 - WFASの今後の方針について -

- 1) WFASメンバーの組織構造を改善する
- 2) 鍼灸技術の発展あるいは世界の医科学領域で主要な役割を果たすための、技術トレーニングの充実
 - ・WFAS加盟50か国104メンバーにおける技術トレーニングを強化する
 - ・鍼灸に対する否定的な見方については、その安全性、有効性を客観的に示すことで対応する
 - ・科学的な手法をもって、鍼灸の科学的側面を証明する
- 3) 多国間臨床研究の実施
 - 多国間で協議の上、特定の選択した疾患に関して共同研究をおこなう
- 4) 標準化の実施
 - 国際的な鍼灸に関する規則、倫理綱領、監査（WFASメンバーの抜き打ち検査）、鍼灸病院の設立（任意寄付制、或いは相互扶助制）メンバー国による広報など
- 5) 学術総会のレベルの向上
- 6) 鍼灸に関する法整備
 - 各国における鍼灸に関する法整備をおこない、その権利が正当に評価されるように努力する。そのためには以下のような点について仕事を行っていく。
 - i) 鍼灸発展における政府の役割を固める
 - ii) 鍼灸の安全性、質を保証するための規則を定める
 - iii) 鍼灸専門家（治療家）のための完全な法整備をおこなう
 - iv) 鍼灸専門家（治療家）養成のための教育・技術トレーニング規則をつくる
 - v) 鍼灸が適正に使用されるための適応基準をつくる
 - vi) 鍼灸資源の適正に採用する
 - vii) 国家的健康保険の基準を定める
 - viii) 鍼灸あるいは鍼灸に関連する知的財産を保護する規則を定める

少々微に入り過ぎたが、以上が今回提示されたWFASの今後10年間の戦略・方針である。この

中で、目立つのはWFASが現在特に関心を持っているのは、学術・研究的なことよりも、各国における鍼灸の教育、技術トレーニング、鍼灸師・鍼灸医師のための法整備・権利保障であり、そこに特に力を入れている点である。同じ項目が再々記載されていることでもそれは伺える。鍼灸の世界的普及を目指しているWFASとしては、鍼灸研究の発展も確かに重要であり新しい研究成果は側面からWFASの目標を助けるが、それよりも世界各国で鍼灸教育がなされ、鍼灸治療家（practitioner）が増加し、さらに、それを各国政府が正当な治療であると承認して各国国民の健康に貢献し、健康保険が適用されるようになるという将来像が恐らくもっと重要な目標であろう。しかしながら、看過できないのはWFASが推し進めている「鍼灸の普及」の「鍼灸」とは中国伝統医学（TCM; Traditional Chinese Medicine）を指しているという点である。今回北京大会にゲストで招かれたWHOの代表者は各国に配慮した結果なのかTCMではなくTRM（Traditional Medicine）という用語を使っていたが、WFAS執行部は常にTCMという用語を使っている。TCMを世界に普及させていくという方針である。こうしたWFASの姿勢に対しては、以前から日本や韓国などはあまり快くは思っていない。特に日本、韓国は元々中国から鍼灸とその技術を輸入したとはいえ、1500年にわたって独自の発展を遂げてきたからである。しかしながら、これは一概にWFAS執行部を責めるべきではないかも知れない。恐らく彼らは鍼灸イコールTCMというふうに関わりあって、日本の鍼灸など、少しは中国の鍼灸とは違うが、「日本鍼灸」と独立させて呼べるようなものではなく、TCMの中に含まれると考えているのではないだろうか。異論もあると思うが、彼らは故意に「日本鍼灸（また漢方もそうであるが）」を締め出しているのではなく、恐らく純粋に「鍼灸（イコールTCM）」を世界に普及させたいだけなのではないかと思われる。

とはいっても、結果的にはWFAS（中国）主導でTCMの世界的な普及、標準化、教育、資格の制定、統一試験などを計画しているということは事実である。現在までは、WFAS執行部と事務局

がうまくリーダーシップを取れないこと(多くの委員会があるが、実際には正常に機能していない)とメンバー各国のいろいろな事情が災い(というよりもむしろ幸い?)して計画はあまり進んでいない。約10年前の『医道の日本』に掲載された「WHOとWFASを斬る¹⁻³⁾」の内容から伺えるWFASの方針が今日でも「方針」であることがそのことを如実に物語っている。つまり、ほとんど進展はしていないのである。しかしながら、次項で述べるようにWFASの戦略として学会を相手にするのではなく各国の教育機関を相手にしてWFASの目標を達成するような提案を今回出してきたことから想定できるように、今後の10年については、WFAS(中国)主導で今までとは全く違った形で進んでいく可能性がある。

. University Cooperation Working Committee について - 参加報告 -

今回WFAS北京大会(2007年10月20日~22日)の直前(10月13日)にWFAS事務局長から各大学の学長宛に本委員会の準備会議(preparatory conference)への招待状がEメールで送られてきた。日本について宛先をみると、鍼灸関係の大学が4校、専修学校が1校その中に含まれていた。本委員会は鍼灸教育の標準化、WHOとWFASによる計画に基づいた学术交流促進を目標としたいが、WFAS北京大会が良い機会であるので、検討

しようではありませんかという内容のメールである。

委員会は北京大会期間中の10月21日夜に執行理事会(19日)が行われた同じ会議室で開催された。参加大学は中国から8大学、中国以外の8か国から12大学であった(表3)。

まず、各大学が自校について簡単なプレゼンテーションを行った。その後は事務局から今後の方針について説明があったが、大した議論もなく、決まったのは今後Eメールでのやり取りにより検討していきましようといったことのみであった。ただ、委員会ではapplication formが配布され、各大学は正式な参加を促された。また、日本に帰つてのち、しばらくしてEメールでも同じ内容のapplication formが送られてきた。ただ、そのformのタイトルをみると、「University Cooperation Working Committee」への入会申請書ではなく、表紙に「Application form for education, clinical research, standardization promotion and international qualification (level) examination base of World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies (WFAS)」とあった。すなわち、大学間共同作業委員会への入会申込書ではなく、WFASの教育、臨床研究、標準化推進、国際資格試験に協力するための申込書である。WFASが恣意的にしたものかどうかはわからないが、この大学間の委員会を通じてWFASの戦略を推し進めたいと考

表3 University Cooperation Working Committee参加大学(北京、2008)

中国国内の大学	中国以外の大学
山東中医薬大学	Universita degli Studi di Milano (Italy)
天津中医薬大学	University of Troms China-
北京中医薬大学	Norway Collaboration in TCM (Norway)
黒竜江中医薬大学	China Medical University (台湾)
成都中医薬大学	Harvard Medical School (USA)
南京中医薬大学	University of Maryland School of Medicine (USA)
浙江中医薬大学	New York Chiropractic college (USA)
遼寧中医薬大学	Rio Preto Medical College (Brazil)
	Airlangga University (Indonesia)
	Harvard Medical School (USA)
	Kyung Hee University (Korea)
	明治鍼灸大学
	鈴鹿医療科学大学
	関西医療大学

えているようである。もっと穿った見方をすれば、本来のWFASメンバーである各学会を相手にしてはなかなか事が進まないの、大学単位で別途メンバーを集め、本来のWFASの戦略を押し進めようとしているように筆者には受け取れる。それが、真実かどうかは今後次第に明らかになってくるのではないと思われる。

・ JSAMあるいは日本はどうすべきなのか？

さて、そこでJSAMである。あるいは日本の対応である。JSAMは今までこのようなWFASの動きに対して、参加し詳細に情報収集はするが(表2)かといってそれ以上積極的には関わらないという方針でこれまでやってきた。今後の10年を考えるとそろそろ方針転換したほうが良さそうである。先にも書いたが、今まではWFASが正常に機能して来なかったため、幸いにも日本として取り返しのつかない事態には至っていない。例えば、WFASが目標に挙げている鍼灸の標準化にしても、経穴部位の標準化についてはWPROのリーダーシップのもと、日本の第二次経穴委員会(形井秀一委員長)が大変大きな役割を果たし、この大事業を終了したことは周知のとおりで、WFASに委ねていれば100年たっても達成できなかったであろう。この第二次経穴委員会はJSAMだけではなく、日本の鍼灸関係の五団体の代表から構成されているが、だからこそ日本の代表としての仕事ができたと考えられる。従って、先日のJSAM(2007年11月23日開催)の理事会でそういう意見をいただいたが、WFASに対してもこの手法をとるのが良いのではないかと考えられる。すなわち、鍼灸関連五団体がWFASに加盟する。その上で日本として統一した方向性を出し、WFAS執行理事会に各団体の代表が出席して意見を述べるという方法である。これは、偏狭なナショナリズムに基づいて中国に対抗して日本の立場を挽回せよというのでは決してない(やり方を間違えるとWFAS執行部にはそう映ってしまう恐れがあるからむしろ注意が必要である)。そうではなくて、どの国にも「伝統医学」は存在するということである。どの国も固有の伝統医学を重んじて行きたいと考えているということである。その

ことをWFASの共通した認識にする必要があるのではないかと考える。そのためにも日本は学会単位ではなく日本全体として、その上であくまで中国はじめ各国と協調しながら、WFASの活動に積極的に関わっていくべきである。幸い一国で複数の団体の加盟が認められている。JSAMとしては、今こそ積極的に日本の他の鍼灸関係団体にWFASへの参加を働きかけていく時期ではなからうか。

・ おわりに

鍼灸は中国から伝来した非常に優れた治療技術であるが、伝来して既に1500年近く経つ。その間、日本独自の発展をとげ、漢方と並び日本の伝統医学となっている。いま、中国の主導によって再びTCMが世界標準となり、教育も資格も試験もTCMに集約されてしまえば、日本の先達が積み重ねた努力、工夫は忘れ去られてしまうであろう。JSAMと日本はWFASに協力して、日本として言うべきことをいいながら、その役割を果たしていかなければならない。

文 献

- 1) 黒須幸男, 津谷喜一郎, 戸部雄一郎. 座談会 戦後の国際交流史を語る1. 医道の日. 1995; 607: 138-42.
- 2) 黒須幸男, 津谷喜一郎, 戸部雄一郎. 座談会 戦後の国際交流史を語る2. 医道の日. 1995; 608: 128-36.
- 3) 黒須幸男, 津谷喜一郎, 戸部雄一郎. 座談会 戦後の国際交流史を語る3. 医道の日. 1995; 609: 166-74.
- 4) 黒須幸男, 津谷喜一郎, 戸部雄一郎. 座談会 戦後の国際交流史を語る4. 医道の日. 1995; 610: 149-55.
- 5) 黒須幸男, 津谷喜一郎, 戸部雄一郎. 座談会 戦後の国際交流史を語る5. 医道の日. 1995; 612: 156-61.
- 6) 井上慶山, 黒須幸男, 津谷喜一郎, 山口泰宏. 座談会 WFASとWHOを斬る - 情報開示から未来は生まれる -. 医道の日. 1998; 651: 124-36.

- 7) 井上慶山, 黒須幸男, 津谷喜一郎, 山口泰宏 .
座談会 WFASとWHOを斬る2 - 情報開示
から未来は生まれる - . 医道の日 . 1998;
652: 121-7.
- 8) 井上慶山, 黒須幸男, 津谷喜一郎, 山口泰宏 .
座談会 WFASとWHOを斬る3 - 情報開示
から未来は生まれる - . 医道の日 . 1998;
653: 110-9
- 9) 津谷喜一郎 . WHOと伝統医学 . 2003. (現代
東洋医学雑誌 . WHOと伝統医学シリーズ(1)
~ (20).1990-1996.)
- 10) 世界鍼灸学会連合会 20周年記念画冊 . 人民
衛生出版社 . 2007.

International Conference Report

Report on the 20th anniversary congress and the executive committee meeting of the World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies (WFAS) - more active cooperation of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion (JSAM) with WFAS is needed -

WAKAYAMA Ikuro

Director, Department of International Affairs
The Japan Society of Acupuncture and Moxibustion (JSAM)

Abstract

20th anniversary congress of the World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies (WFAS) was held in Beijing, China on 20-22 October 2007. The congress was characterized by 1) celebration of 20th anniversary of WFAS, 2) distinguished guests from World Health Organization (WHO) were invited, and they gave us a lecture, 3) WFAS executive committee showed a strategic plan for future 10 years.

Although WFAS strategic plan has not carried out properly in the past 10 years, it could be completed in the next 10 years. WFAS is changing from what it used to be. Therefore, JSAM has to reconsider its strategic plan for WFAS and for the worldwide spread of acupuncture and moxibustion.

Zen Nihon Shinkyu Gakkai Zasshi (Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion: JJSAM). 2008 ; 58(1): 93-101. Received 2 Apr, 2007 Accepted 12 Jan, 2008

Key words: WFAS, WHO, 20th anniversary, Beijing, executive committee